



12月5日(土)に、八代家住宅で今年度最後のイベント「八代家で冬支度」が行なわれました。

(内海)

第1部は「昔の大掃除体験」。昔ながらのお掃除の方法を、先生に教えていただきました。

手拭い^{てぬぐ}を姉さんかぶりして、まずは座敷の掃除からスタート。はたきをかけてから、座敷箒^{ざしきほうき}で畳上のゴミを掃き出します。半乾きのお茶殻^{ちやがら}を畳に撒いてから掃くと、お茶殻にホコリ^{から}が絡まり、よりきれいになります。

続いて、板の間の掃除です。最初に先生が、束ねた青竹を使っての煤払い^{すすはら}の方法を見せてくれました。このようにして、梁^{はり}などについた煤を払ったそうです。その後、子ども達は米の研ぎ汁で絞った雑巾で床面を拭き、それから、米糠^{こめぬか}が入っている糠袋^{ぬかぶくろ}を使って大黒柱などの柱を磨きました。拭けば拭くほど、磨けば

磨くほど、床や柱が光っていくので、子ども達も大喜び。お家の床や柱も磨いてみる、と大はりきりでした。

先生からは、小さい頃の掃除体験のお話もうかがいました。朝起きて朝食前に掃除をすることが子どもの仕事だった、ということや、大掃除の後に餅つきをして、そのお餅で作った鏡餅を神棚などに上げた、というお話を聞きました。今回も、カマドの神様と神棚に小さな鏡餅を上げて、大掃除体験を終了しました。



第2部は、「幻燈上映会」。幻燈とは、昔ながらのスライド映写機のことです。

映画などが一般的でなかった時代、子ども達や若い人達の集まりでよく上映されたようです。映画とは違い、スライドの1コマ1コマを、カシャッカシャツという音とともに手動で切り替えていきます。スクリーンには、白いシートを使いました。

上映に先立ち、「幻燈」という言葉が出てくる、宮沢賢治の『やまなし』が朗読されました。

幻燈機とフィルムは、明野保育所からお借りしました。これらはとても貴重なもので、県内を探してもなかなか見つかりません。上映作品は、「うみさち やまさち」「かさじぞう」「かくれみの」の3作品。幻燈は無声なので、朗読の方がスライドの切り替えにあわせてお話を読んでいきます。珍しい幻燈と懐かしいお話を、皆さん楽しんで下さったようです。



第1部と第2部の入替時間は、おふるまいの時間。カマドで、炊きたてごはん^こと地元野菜たっぷりの豚汁^{とん汁}を作りました。使用した食器は、八代家住宅のお蔵の中にあつた漆塗りのお椀^{わん}とお膳^{ぜん}です。八代さんのご好意で、今回使わせていただきました。とても豪華です！



これで、「見るだけじゃもったいない！ 重要文化財『八代家住宅』」のイベントは全て終了です。今年度は、「昔の暮らし」に焦点をあてたイベントを実施してきましたが、参加して下さった皆さんが、八代家住宅において昔の暮らしを味わい、生活の知恵や、昔ながらの楽しさを感じて下さったら嬉しいです。

